

本校では、工学教育とともに、研究開発で生まれた技術やアイデアを、特許を始めとした知的財産として活かす知識を身につけ、知恵と行動力を持った信頼される技術者の育成に力を入れています。

今回の最前線レポートでは、本校の知的財産教育に力を入れておられる生物応用化学科の兵田俊治助教に詳しいお話を伺いました。

## 知財教育



生物応用化学科 兵田俊治 助教

### 専門分野:

有機化学、環境化学  
特許に関すること など

### 担当科目:

有機工業化学  
生物応用化学実験1  
化学特許概論  
環境化学概論 など

### ◆ 新居浜高専における知的財産教育の取組みについて教えてください

本校の知的財産教育の例として、生物応用化学科の取組みをご紹介します。生物応用化学科では、将来の技術者に必須とされる知的財産(主に特許)に関する知識の習得を目指しています。知的財産教育は科目間連携(3年:無機化学1/4年:無機化学2、合成化学/5年:経営工学、有機工業化学、食品化学、有機機能化学/生物応用化学専攻:理論有機化学、有機合成化学、化学特許概論)により実施しています。

「知的財産とは何か?」から始めて、特許電子図書館による特許検索を行い、学生自身の研究と従来技術の差別化、それらをベースにして発明を構築し、文章にすること、つまり明細書を書くことを最終目標に努力しています。

また8年連続で「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業(工業所有権情報・研修館(INPIT)主催)に採択されており、来年度も応募しているところです。本事業に採択された全国の他高専(15校程度)や工業・農業・商業高校等(200校程度)とも情報交換を行い、他校の取組方法を参考に、知的財産教育を毎年改善し、現在に至っています。

### ◆ どのような成果が出ていますか?

パテントコンテスト特許支援対象者(5年連続採択、内2件は特許取得)、キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)四国大会(8年連続)等の学外コンテストで入選しており、CVG四国大会で最優秀賞を獲得し全国大会に進んだ学生も出ています。また、平成21年以降は知的財産管理技能検定3級(以下「知財検定3級」)に毎年5名ほどの学生が合格しており、高校・高専合格者数ランキングで常に上位を占めています。

これらの成果は、学生が従来技術の差別化等について、指導教員から添削を受け、修正を重ねて完成させた明細書を学外コンテストに応募した結果です。当初は雲の上にあると思われた学外コンテストでの入賞も、知的財産教育環境の地道な改善により、ここまで到達することができました。

知財検定3級の取得は、知的財産権の体系的理解を深めるばかりでなく、就職採用時における企業の評価も高く、また就職後にも有用です。本校では授業に加えて、知財検定3級の受検を支援するため、夏季講習会も開催しています。

学外コンテストの入賞者や知財検定3級の合格者は、応募書類の作成、受験勉強等の苦しい道筋を乗り越えて目標を達成したという達成感とともに、自信を得たように見え、これらの経験を次のステップの礎にしてもらいたいと思っています。

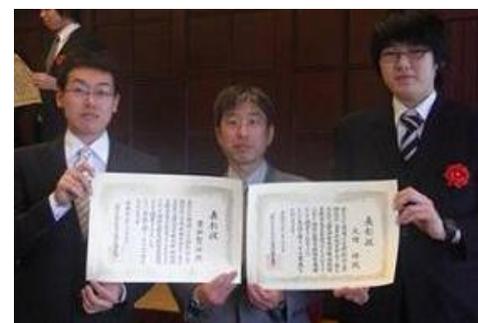
### ◆ 今後の知財教育について

「馬を水辺に連れて行くことはできるが、水を飲むことは出来ない」ということわざがあります。学外コンテストの入賞や知財検定3級に合格した学生達の姿を間近に見て、他の学生達も「自分も続かなければ」とモチベーションを高められるような知的財産教育環境の構築に努めていきたいと考えています。

— ありがとうございました。



▲知財検定3級夏季講習会



▲パテントコンテスト2010表彰式(東京)